

研究成果情報		園芸	34	果樹	病害虫
新技術・情報名	雨よけ栽培によるブドウ枝膨病感染の防止効果			分類	①

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

ビニル被覆による雨よけ栽培を行うと、果実品質の低下をきたすことなくブドウ枝膨病の感染を防止できる。

- (1) 3月下旬から7月中旬以降までビニル被覆を行うと、薬剤無散布でもブドウ枝膨病の感染がほぼ防止できる。6月下旬までの被覆でも、多雨年（平成3年）を除くと、感染防止効果は高い。
- (2) 連年雨よけ栽培を行うとさらに感染防止効果が高まる。
- (3) 6月下旬にビニルを除去すると、果実の着色や糖度には影響を及ぼさない。
- (4) 雨よけ栽培を行うと、ブドウの主要病害である黒とう病及びべと病の感染も同時に防止できる（データ略）。

2) 技術・情報の適用効果

雨よけ栽培は枝膨病の他、黒とう病及びべと病にも感染防止効果が高いばかりでなく、被覆期間中はほとんど薬剤防除が不要であるため、ぶどうの減農薬栽培が可能となる。

3) 適用範囲

ぶどう（特に巨峰群品種）栽培地帯

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

被覆期間が長くなると果実の品質が低下することがあるので、6月下旬にはビニルを除去する。ただし、枝膨病は7月中旬まで感染するので、除去後に降雨が続く場合は薬剤防除を必行する。

2. 具体的データ

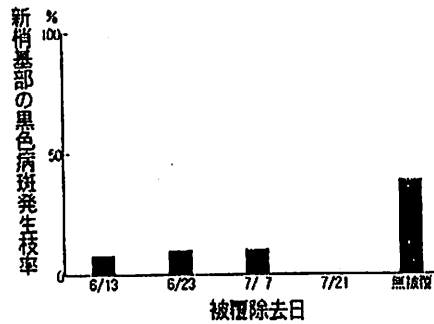


図1 枝膨病に対する被覆除去時期別の防除効果（平成11年）

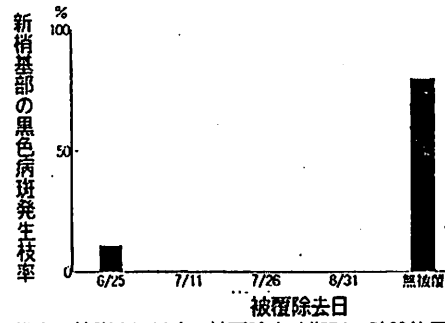


図2 枝膨病に対する被覆除去時期別の防除効果（平成12年）

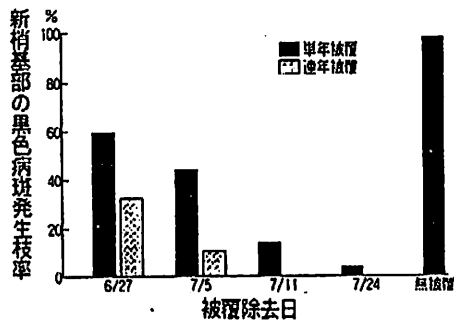


図3 枝膨病に対する被覆除去時期別の防除効果（平成13年）

表1 ビニ被覆による果実品質への影響（平成12年）

ビニ除去日	着色	糖度	酒石酸
6月20日	9.0	17.91	0.627
7月20日	6.4	16.35	0.635
8月20日	5.7	16.49	0.652

3. その他特記事項

担当部科室名：生産環境研究所 病害虫部 果樹病害虫研究室

園芸研究所 果樹部 落葉果樹研究室

研究担当者名：梶谷裕二・姫野周二・山口健一・山中正博

研究課題名：ブドウ枝膨病の総合的防除技術の開発

2) 耕種的防除法の確立

期 間：平成元年～平成3年

予算区分：地域重要新技術

既発表論文・資料名等：九州病害虫研究会報 第38巻 講演要旨（投稿

中）、平成元年～3年度福岡県農業総合試験場

果樹病害虫関係試験成績書

取りまとめ責任者名：梶谷裕二